

## 新任教員紹介

法学部准教授 **水間 大輔** 研究室：610



担当科目 東洋法制史 外国文献研究Ⅰ 基礎演習 専門演習

専門領域 中国古代史

研究紹介 1970年代以降、中国古代の簡牘が各地で続々と出土し、既存の伝世文献では知られていなかったことが次々と明らかになっていきます。私は学部学生の時以来、伝世文献はもちろんのこと、これらの簡牘なども史料として、主に中国古代の秦・漢で行われていた刑法、及び司法・警察機構について研究を行っています。

私の学生時代 大学法学部で法学を学ぶ一方、独学で中国古代史を学びました。毎日八時間漢籍を読みました。ほとんど修行に近いものがありました。大学院に入学してからは忙しくなり、漢籍をじっくり読む時間がむしろ失われてしまいました。学問に励む一方で、旅行にもよく行きました。

学生へのメッセージ 学生時代にはお金がありませんが、あり余る時間があります。学生の本分は勉学に励むことですが、その他にも部活動・サークル活動や旅行など、さまざまな活動に対して時間を有効に使ってください。

## 新任教員紹介

法学部講師 **土屋 耕平** 研究室：612



担当科目 行政学 現代政治論 基礎演習 専門演習

専門領域 行政学 地方自治論

研究紹介 政治参加と行政統制について 選挙権年齢の18歳引き下げが議論されていますが、政治参加は投票に限定されません。行政は議会以外の審議会・請願・社会運動などからも要望をくみ取り政策に活かしつつ、行政の正統性確保に参加を利用する面もあります。熟議を促し政策の改善に役立てようとする参加の仕組みが実験的に導入されています。実態調査し政治学理論への含意を探っています。

私の学生時代 中央大学法学部政治学科で学び、専門演習では行政学者である今村都南雄先生のご指導を受けました。ゼミ論文は週報自治体と内発的発展論を扱い、課題図書だった宮本憲一先生の著作に触発され書いたものです。公務員を漠然と志望していましたが、ゼミで学ぶうちに大学院進学を決めました。今村ゼミの同期先輩とのつながりも私の大きな財産です。

学生へのメッセージ 大学には様々な新しい出会いがあります。それを自らの成長の糧にしていってください。実りある大学生活となるよう、共に学んでいきましょう。

## 新任教員紹介

法学部講師 **花房 秀一** 研究室：611



担当科目 政治史 政治学 基礎演習 専門演習

専門領域 中世フランス史

研究紹介 私の研究領域は中世フランス、特にフランス北部のノルマンディ地方です。1980年代頃から、ヨーロッパでは「近代国家」の起源を中世後期(13世紀後半～15世紀)にさかのぼって研究することが主流となりました。そこで私は、ノルマンディという一地方から見た、中世フランスにおける「国家」形成のメカニズムを解明してみたいと考えています。

私の学生時代 もともと研究者になるのが夢でした。大学では専門を中世フランス史と決め、語学の勉強に励みました。中世ヨーロッパの公用語であったラテン語は非常に難しく、名詞や動詞の活用を必死になって暗記したのを今でも覚えています。ただ勉強ばかりしていたのではなく、旅行が好きでしたので、友人と青春18切符を使って日本各地を旅行しました。

学生へのメッセージ 大学4年間は、人生の中で一番自由な時間です。その自由な時間を使って、「将来やりたいこと」「やりたいことを実現するには何をすべきか」についてじっくり考えてください。

# 法

CHUO GAKUIN UNIVERSITY

平成27年7月10日発行

# 学部報

人権感覚の育成と  
共生意識の確立

# 38



STAND BY YOU

## プライムセミナー開催

法学部准教授・プライムセミナー運営委員

**三宅 篤子**

桜 咲く中央学院大学のキャンパスにおいて、今年度も新入生のためにプライムセミナー（研修）が開催されました。

4月2日（木）は、キャンパスライフ生活編と学び編というテーマでガイダンスを行いました。

4月3日（金）の午前には、少人数制の基礎演習（ゼミ）を担当する教員とともに、自己紹介後、履修届を作成しました。真理の探究を職務とする教員が発する言葉の端々から、新入生たちはこの4年間に学ぶ学問の奥深さを感じることができたと思います。

午後には、新入生全員が集まった大教室においてゼミ対抗クイズ大会が開かれ、新しい友人との絆を深めました。この大会を主催した学生スタッフは、昨年11月からプライムセミナーの準備をしてきました。的確かつ効率的に行う彼らの仕事術は先輩から受け継ぎ、さらに進化させたものです。また、新入生への

温かいおもてなしは、「新入生に伝えたい」という彼らの熱い想いに、人に伝える技術というスパイスを加えたものです。後者は、本学のカウンセラーによる研修を受講することによって身に付けました。

最後に、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部特別救助隊（レスキュー隊）、千葉県警察本部鑑識課、公益社団法人日本プロゴルフ協会、そして、ロクシタンジャパン株式会社に所属し、社会の第一線で活躍する4人の卒業生にインタビューをしました。新入生たちは彼らに強い憧れの念を抱いたことでしょう。

二日間の研修を終えた新入生たちは、ひとまわり成長した引き締まった表情で、4月5日の入学式に臨みました。



去年以上に1年生もスタッフもみんなが楽しめるプライムセミナーにしたい。そういう想いで企画に取り組みました。達成に向けて妥協せず取り組み、なかなか話し合いがまとまらないことなどもありましたが、当日はみんな大盛り上がりで大成功を収め、ここまでやってきて本当によかったと思えました。ずっと支えてくれた仲間にも職員の方々にも感謝です。



プライムセミナー学生スタッフ リーダー **宮脇 卓哉** (千城台高等学校出身)



## スポーツシステムコース

ふじ なら なお き  
**藤原 直樹** (二松學舎大学附属柏高等学校出身)

私は、将来の夢につながることを学べると思いこの大学に入学しました。大学に入る前は不安や心配なことが多くありましたが、プライムセミナーのスタッフの方たちが大学生活について様々なアドバイスをしてくださり、不安を解消することができました。大学生活で多くの知識を習得し、スポーツ関係の仕事に就きたいと思っています。



## 現代社会と法コース

い い いら ち ひろ  
**飯村 知紘** (水城高等学校出身)

プライムセミナーを通して、履修や大学のシステムをより早く理解することができました。現社コースでは、机上の空論ではなく、フィールドワークを大切にしています。そこで自身の目や体で感じたことは貴重な体験となるはず。このような経験を積み重ね、充実した大学生活を送りたいと思います。



## 司法コース

た だ ぜん きゆう  
**多田 全久** (茨城県立神栖高等学校出身)

私は、昨年度のオープンキャンパスで野口先生の講義を聴いて法学に興味を抱き入学しました。大学生活を始める前は不安なことが多くありましたが、プライムセミナーで先輩スタッフが大学生活のことを親切に教えてくれました。4年間頑張り、法律職に就きたいです。



## ビジネスキャリアコース

お お い し れ お  
**大石 怜央** (静岡北高等学校出身)

法学部で一生懸命勉学に励み、法学とビジネスに関する知識を身につけたいと考えています。また、ゼミで行われている、学生起業プログラム等で積極的に活動し、社会で役立つ実践的な知識や行動力も身につけたいと考えています。そして様々な人と出会い、人間的に成長したいと思っています。



## 行政コース

さ たけ こう いち  
**佐竹 晃一** (東北高等学校出身)

私は2日間のプライムセミナーを通して、大学生活に対する意欲が湧いてきました。高校とは違い自ら進んで様々な事に挑戦することができ、自分のしたい勉強ができると実感したためです。大学生の4年間という時間を自分を成長させる時間に費し、将来警察官になれるよう頑張っていきたいです。



## 国際学会・在外研修報告

### 🇸🇬 平成26年度 在外研修(短期) 報告

こ ぼ や し ひろ かず  
法学部教授 **小林 敬和**

昨年度3ヶ月間の短期在外研修の機会を得て、シンガポールのラッフルズ・インスティテューションに夏休み1カ月半・春休み1カ月半と2回に分けて滞在することになった。この学校はシンガポールの名門私立校で、いわゆる文武両立(学業とスポーツの両立)の一貫教育(中・高・短大に相当する学年)を特色として国内外の有名大学を目指す有数のエリート校でもある。滞在期間中はスポーツ研究所の客員アドバイザーとして顧問教員や外部コーチなどのへ指導者教育、またその要請に応じて様々なスポーツの専門トレーニングを学生たちに直接指導する機会も多かった。また日本に留学(ほぼ全員が東大志望)する学生が活動する日本文化サークルでの講演、外部から練習に来る各種競技のナショナルチーム選手の指導なども担当した。またシンガポール政府スポー

ツ機関のキッズプログラムのスタッフとして活動したり、民間のリハビリテーションセンターでのワークショップ(指導者研修)やシンガポール陸上競技協会の指導者講習会、有名ホテルであるマリナーベイサンズ(MBS)従業員のランニング及びトレーニングの指導(ほぼ毎週)にもゲストコーチとして関わることができた。シンガポールの公用語は英語であるが人口の約80%は中華系であり中国普通語も通じる。自分にとっては比較的好都合なコミュニケーションの環境であったが、スポーツの現場指導としてもやはり語学の重要性を痛感した期間であった。



### 🇺🇸 第57回 ABS年次大会で報告して

か わ く ほ ふみのり  
法学部准教授 **川久保 文紀**

4月初め、米国オレゴン州のポートランドにおいて、第57回境界・国境地域研究会(ABS)が開催された。私にとって、今回参加報告するには、特別な意味合いがあった。それは、私が翻訳したボーダースタディーズ(境界研究)の入門書(『境界から世界を見る』岩波書店、2015年)の筆頭著者であるA・ディーナー准教授(カンザス大学)と共同パネルを組むことができたからである。

最初に、ディーナー氏が、この入門書を執筆した経緯を話された後、ご自身の研究領域である政治地理学の見地から境界研究の学際的アプローチについて述べられた。私は、今回の翻訳の意義と目的について、今後どのように境界研究を日本で

紹介・導入していくのかという観点から論じた。

報告終了後、ウィラメット川を臨むレストランに場所を移し、ディーナー氏と食事をともにした。オックスフォード大学出版会からすでに改訂第2版を出さないかという打診がきているようで、今後の方向性についてざっくばらんに話をすることができた。これを契機として今後も連絡を取り合い、さらなる研究交流を続けることができると思っている。



### 🇪🇸 海外での研究活動(スペイン)

の ぐ ち たけのり  
法学部講師 **野口 健格**

私の担当科目は「憲法」であるが、「スペイン法」という専門領域も持っており、調査や資料収集のため、よくスペインを訪れる。ネット社会の発展により書籍の購入や情報収集は、語学ができれば比較的容易になった。しかしながら、インターネット上のやり取りでは得ることのできない情報があることもまた事実である。「法」は人々が生活の中から生み出した経験則という側面もあるので、スペインで「法」の適用を受ける人々が、どのような個性的存在であるのかについて知ることは、研究及び執筆過程でも重要な意味を持つ。今回も2月に2週間程現地を訪れたが、そのなかで、地元愛はあるが愛国心がなく、自己中心的なくせに

他人にやさしく、異文化に対する冒険心と畏怖心を持ち合わせているスペイン人に沢山出会い触れ合ってきた。資料の収集先は、学生時代の留学先であるサラマンカをはじめ、マドリッド、セビリア、バルセロナへと足を延ばしてきたので、日本では買えない資料も数多く集めてくることができた。次回は、研究の進捗状況にもよるが、特色ある地方の小規模都市を訪ねてみようと考えている。

